

▼海外からの留学生らも参加。みなさん振り袖、羽織り・袴は生まれて初めてとあってうれしそう。りりしい格好のだんなさんに「ほれ直しました」のコメントも。



よへる祭りにて 国際交流

桜花らんまん春一番の四月二日、大塚熊野神社特設広場で貴之さくら祭りが開催されました。今年は開花が少し遅く、まだ三分咲きの当日、ステージでは、琴、舞、三味線なりの発表もあり、また、市内の外国人参加の着物着付け体験コーナーや民衆のサービスもあって千人近い見客で賑わっていました。

外国人を対象にした打ちかけ抽選プレゼントのときは、オーグレイト!!の歓声も上がっていました。

主催した地元公民館長、門田一さんは「今年是一回目、準備時間も少なく、まだまだといったところだが、だんたんと大きな、南国市の春のまつりに育てて行きたい」と決意を語っていました。

夏の、まほろば祭り、秋のチ谷村龍馬まつり、冬の土佐日記門出のまつり、出陣祭、これにこの春のまつりがプラスされれば四季を通して祭りがあることになり、南国市も楽しい事が増えました。



また活たかったものの、参加者は汗をながしながらの散策となりました。それぞれ製付いたことを書き留めた一行は、「まちづくりを考える会」の島中智子さんの指導のもと、奈路公民館で良かった点、問題点をまとめる作業を、その結果、木源近くにはすばらしい自然が残っている、魚がたくさんいるなどの反面、下流に行くほど水質が悪い、自然を残した護岸が少ない、植林の手入れをしていないので暗い感じがするなどの問題点もあがっていました。

みんなでふるさと再発見

日ごろ見過ごしがちの、自分たちのふるさとを改めて見つめ直そうと三月二十六日、あせ道探検隊95が行われました。これはAS奈路倶楽部が主催したもので、今年で二回目、参加した約三十人の中には、高知市や土佐市、遠くは佐賀町から来た人も。

奈路公民館を出発、地図を片手に奈路川沿いを歩きながら、残しておきたいところや珍しいもの、また、改善したい場所などを探しました。今回のコースは山あり谷ありのハードなもので、風はまだ



また活たかったものの、参加者は汗をながしながらの散策となりました。それぞれ製付いたことを書き留めた一行は、「まちづくりを考える会」の島中智子さんの指導のもと、奈路公民館で良かった点、問題点をまとめる作業を、その結果、木源近くにはすばらしい自然が残っている、魚がたくさんいるなどの反面、下流に行くほど水質が悪い、自然を残した護岸が少ない、植林の手入れをしていないので暗い感じがするなどの問題点もあがっていました。

「ふるさとキャラバンみなみのくにのまき」公演が4月13日、市民体育館で開催されました。これは4日クラブ（広井圭介会長）の主催で、約1000人のお客さんが訪れました。

「男のロマン女のフマン」と題した、どこの街や村でもありそうな物語を、観客は立ったり、笑ったりで大いに楽しみました。



3月26日、市役所駐車場で「ウエルカムなんごくフリーマーケット」が開かれました。昨年11月に続く2回目の開催で、この日は、高知市などからも参加者があり、60もの出店となりました。午前10時には、開場を待ちかねた家族連れなどが繰り出し、多勢の人出でにぎわいました。



3月26日、一市石土池周辺でバードランド同回駅伝競争大会が開かれました。これは、南国市競技協会の主催で、高知市、中村市など県内6市町村から参加した社年の部9チーム、女子の部5チーム、70人の選手は、5区間16キロのコースで健脚を競いました。

なお、優勝チームは、社年の部が高知市A、女子の部は南国市Aチームでした。



3月25日、うなぎ加工工場「ピエント・オー・ビー」でうなぎの蒲焼の実演販売が行われました。ふるさと財団の融資などにより建設された同工場が、地域の人に知ってもらい、地元の良質のうなぎを味わってもらおうと行ったもの。この日訪れた市民らは手焼きの蒲焼を「焼きが違う、味が違う」と次々と買い求めていました。

3月25日、老人保健施設「夢の里」で、市内や周辺地域の病院、老人福祉施設、福祉専門学校生徒ら約90人が参加して、介護の症例発表会が行われました。この会は、同施設に対する理解を深めてもらい、関係機関や地域とのつながりを深めようと、夢の里が主催したもので、この日は、病院などのケースワーカーによる実演発表なども行われ、参加者は熱心に意見交換を行いました。



3月22日、保険会社などより新1年生に、交通安全の黄色のワッペンが贈られました。これは毎年贈られているもので、この日はフレンド幼稚園から5人の代表園児が教育長室を訪れ贈呈式。ワッペンをつけてもらった園児たちは、「ありがとう。交通安全を守ります」とお礼を述べていました。